

## 第1回宇治市観光振興計画策定委員会 議事録

日時 令和4年6月2日(水) 午後6時～午後8時

場所 宇治市役所8階 大会議室

### 出席者

宇治市観光振興計画策定委員会

委員長 坂上 英彦

委員 藤原 直樹

” 片山 明久

” 中村 藤吉

” 堀井 長太郎

” 後藤 英之

” 神居 文彰

” 荒木 将旭

” 佐脇 至

” 酒井 勇治

” 今岡 弘典

” 西村 嘉高

オブザーバー 長谷川 理生也

” 栗山 晃司

” 多田 重光

### 事務局

宇治市長 松村 淳子

産業観光部部长 脇坂 英昭

産業観光部副部长 前田 聖子

都市整備部副部长 米田 晃之

産業観光部産業政策推進専門官 松田 敏幸

産業観光部観光振興課課長 木田 陽子

産業観光部観光振興課副課長 山田 裕之

観光振興課観光企画係主任 西井 利治

## 資料

- ・ 第 1 回宇治市観光振興計画策定委員会次第
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会 委員名簿
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会設置要項 資料 1
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項 資料 2
- ・ 第 2 期宇治市観光振興計画の策定について 資料 3
- ・ 第 1 期宇治市観光振興計画後期アクションプラン計画の体系 資料 4
- ・ 第 2 期宇治市観光振興計画 計画イメージ 資料 5
- ・ 宇治市第 6 次総合計画の全体像 資料 6

## 1. 開会

## 2. 委員の委嘱

松村市長より委嘱状交付

## 3. 開会あいさつ

松村市長：

本日は遅い時間からの開催にもかかわらず、ご出席を賜りありがとうございます。

宇治市における観光計画は、平成 25 年 10 月に計画期間を 10 年間とした第 1 期宇治市観光振興計画を策定したことに始まった。「宇治茶に染める観光まちづくり～みんなで淹れるおもてなしの一期～」というコンセプトの元、取り組みを推進してきた。その 5 年後にはアクションプランを策定し、インバウンド対策の強化を追加するなどした。

第 1 期計画は本年度で一つの役目を終えることとなる。

この間、新型コロナウイルス感染症の拡大により観光のスタイルやニーズが大きく変化しているが、このタイミングで第 2 期計画策定時期を迎えてよかったと考えている。

ようやく経済活動再開や水際対策緩和によって、人の流れが徐々に始まって、今ならウィズコロナ・ポストコロナの観光のニーズが予想できる段階ではないだろうか。そういった意味でも本年度に計画策定することには大きな意義があると思う。

旅行者の多くが団体ではなく個人で旅行する傾向となったり、逆にインバウンドについてはこれまで我慢していた分、韓国ではビザ発行窓口で長蛇の列ができてきている状況もあるようである。

第 2 期計画策定にあたっては、ウィズコロナ・ポストコロナに対応する新たな視点や資源の活用といったことを包含しながら、宇治市に訪れた人が宇治の魅力に触れて心身ともにリフレッシュしてもらえる観光地にしていきたいと思う。

委員会だけの議論に留まらず、各団体に所属されている若い方からのご意見も頂戴して、10 年後の観光を目指し、この 2,3 年で何をしていくべきかといった方向性を計画にしっかりと盛り込み、さすが宇治市だと言われるような観光振興計画を作っていきたい。

委員の皆様方には幅広い視点からのご意見や闊達なご議論をお願いしたい。

## 4. 委員の紹介

委員自己紹介、オブザーバー自己紹介

事務局紹介

## 5. 委員会互選及び副委員長指名

委員長は坂上委員、副委員長は中村委員に決定。

## 6. 委員長あいさつ

委員長：

新型コロナウイルス感染症の影響で観光関連業界はこれまでにない経験をしているかと思う。困難な状況の中でも皆様方におかれては、日々継続的に活動され敬服している。

貴重なご意見や助言・ご指導をいただきながら計画策定を進めていきたい。

#### 7．委員会の公開について

事務局より資料2について説明。

委員一同、委員会の公開について異議なし

傍聴者（記者1名）入室

#### 8．協議

・第2期観光振興計画の考え方

事務局より資料3 資料4 資料5 資料6について説明。

委員長：

事務局の説明について質問等あるか。

事務局：

説明を補足させていただく。11年間の計画期間については、今年度から開始される宇治市第6次総合計画の12年間の計画期間に合わせている。また、総合計画と同じく4年ごとに中期計画を設定し、具体的な取り組みを進める。観光振興計画の場合は前期3年、中期4年、後期4年となる。

委員長：

総合計画の計画期間に合わせて、観光振興計画もブラッシュアップしていく。

委員：

11年という計画期間は大変長いので、それぞれの中期計画ごとにある一定の総括をしてブラッシュアップしていくべきではないか。これだけ時代の流れが速く動いているので、コロナ禍に対する方向性もこの数年で大きく変化することも考えられる。

また、第1期期間中には交通基盤整備（新名神高速道路 大津～城陽間の開通、JR奈良線複線化）もあり、もしかすると大規模災害が発生する可能性もある。

委員の交代や新しい視点を積極的に取り入れていくなど、常に新陳代謝をよくしていくべきである。

事務局：

中期計画ごとに総括をして次期計画へ反映していく。また、11年という計画期間も変更の必要があれば柔軟に対応していきたい。

- ・計画策定の体制【ワーキンググループの構成、テーマなど】  
事務局より資料3に基づき説明。

委員長：

ワーキンググループの構成やテーマについて意見はあるか。

委員：

ワーキンググループは非常によい案だと思う。特に40歳以下の若い人の意見を取り入れて政策等が進むことは非常に望ましい。

構成団体案はさらに広げて行ってほしい。例えば、学生の区分には宇治市内の中学高校の生徒会に入ってもらってはどうか。地元に住む子どもたちから自分たちのまちをどうしていけばよいかといった意見も聞きたい。また、そういったことを考える機会をこちらから提示できればよいのではないか。

従来の観光に縛られない、若い世代からの柔軟な発想も生まれてくると思う。

委員：

ワーキンググループはよい試みだと思う。

団体に属してはいないが、観光のことを真剣に考えている方々も入れて行ってはどうか。そういう方々の意見は非常に貴重であると思うので、委員の推薦があればメンバーに入れるといったようなオープンな仕組みにした方がよいと思う。

また、メンバーは宇治市在住者に限らず、在外者や宇治観光のリピーターの方など、第3者的な視点も必要ではないか。そういう方々をどのように見つけてくるかが問題ではある。

委員：

宇治はこれから京都府南部の観光の窓口になるべきである。

策定委員会では一緒にできないが、その周辺地域に住んでいる若い人たちがどこかで参画していけるような素地を残しておくといい。そうするともっと広域的な観光が目指せるのではないか。

委員長：

高校生で地域教育などに取り組んでいる学校があれば、ぜひ参加をしてほしい。

高校生対象の観光アイデアコンペなども話題性があると思う。

事務局：

宇治市内の小中学校では宇治学の授業に取り組んでいる。

事務局に教育委員会の副部長も入っているので、教育面からも意見を言っていただく場面があるかと思う。

また、若い人の他にも女性や障害のある人など多様な視点を取り入れていきたい。

委員長：

本日の委員会メンバーにはほとんど女性がない。男女共同参画の視点から望ましい男女比があると思うので、ワーキンググループではそれが達成できることを願っている。

委員：

茶づなは注目度や集客力も高いので、ワーキンググループのメンバーに入ってもらえなど、どこかで利用してもいいのではないか。

委員長：

茶づなの施設は、自由なアイデアも出てきやすいと思う。

委員：

日本人以外の方もワーキンググループのメンバーに入れてほしい。従来の宇治の観光資源にはなかったものに着目して、新たな発想が生まれてくるのではないか。インバウンドはこれからも必要不可欠である。

委員：

リピーターという話が出たが、地方創生の観点で国全体を挙げて関係人口の創出に取り組んでいる。宇治と何らかの繋がりのある人を増やしていくことが必要である。

宇治は山城地域の玄関口である。京都・奈良への往来も多いので鉄道やバスといった公共交通機関の企業にも入ってもらってはどうか。

また周辺地域の学生や産業観光の分野、ワーケーションといった観点からリモートワークを実施している企業の若手社員なども入れて議論してはどうか。

委員：

先程から意見が挙がっている地元の学生や多様な方々にどのように参画してもらうかは事務局で検討をお願いしたい。

宇治市民が宇治市を誇れるようなシビックプライドを高めていくことが、一番重要である。そういった内容のワークショップを茶づな等の公共施設で開催し、市民同士のコミュニケーションを活性化することで、宇治市の魅力向上に繋がり、来訪者も増加するのではないか。

さらに、宇治市民が宇治の魅力を再発見できるようなマイクロツーリズムの観点も取り入れていけたらとよいと思う。

委員：

現在の学生の実状について申し上げる。このような取り組みには、地域連携学生プロジェクトの学生が中心となって参画することが多かった。今年の大学1年生、2年生はコロナ世代の学生なのでできるだけフィールドワークを行って実際に宇治を見てもらっている。毎週土日はボランティア活動で観光協会の仕事体験も実施している。できれば学生プロジェクトからもう少し広げて、宇治に興味を示す学生を募ってみてはどうか。

テーマについて、これまでの観光は地域側が魅力を提供して、それを観光客が消費する形で行われてきたが、近年ではそれが異なってきており、主導権が旅行者に移ってきた。旅行者が自由に行動し、旅行者同士で盛り上げられるような遊べる場所へのニーズが高まっているのではないかと。実際に佐脇委員のお店はそのような場になっている。我々は旅行者が自由に集える場所を提供し、後ろから旅行者をサポートする。そのようなテーマも考えられるのではないかと。

委員長：

テーマ案の方に議題が移りつつあるが、テーマ案について意見はあるか。

委員：

宇治に生まれ育ち今後も暮らし続けるグループと、宇治に移り住んで新たに生活されているグループとで今後の宇治の展望や宇治の観光とは何かについて意見交換をしてはどうか。

今年は7年に一度の善光寺の御開帳があり、善光寺へのお参りだけでなく周辺の文化施設やまちの魅力に触れる機会にもなる。古くから観光は巡礼の側面もあった。

3週間程前の京都新聞に観光についてのレポートが掲載されていて、令和3年度の概要に「社寺の拝観が振るわなかったため」とコメントがあり、一概にそれだけが原因ではないと思った。

観光客にお金を落としてもらうだけでなく、自分たちの住むまちの資源や観光とは一体何なのかということのを改めて若い人たちとともに議論していきたい。

委員長：

有意義な議論にするにはファシリテーターなどのリード役が重要となってくる。

委員：

これまでの議論で気づいた点を6点申し上げる。

1点目。ワーキンググループの構成について、本学では宇治市の観光振興課に自治体政策

論の授業をしていただいている。それに関心を持った学生が宇治市役所を受験し、今年の春から宇治市役所の職員になったケースがある。宇治市外にある大学の学生もワーキンググループに参画できるような仕組みがあればいいと思う。

2点目。ワーキンググループに日本人以外のメンバーがいればよいのではといった意見があったが、大いに賛成である。他の自治体では国際交流員（CIR）が雇用されているケースがある。主に欧米の大学を卒業された方が自治体国際化協会を介して日本の様々な自治体でアシスタントイングリッシュティーチャーなどとして活動している。そのような外国人や地域に愛着を持っている外国人にメンバーになってもらうのはどうか。一例をあげるとオーストラリア人の方が北海道ニセコ町の雪質のよさを発見し、その魅力を発信することでニセコに多くのオーストラリアからの観光客が訪れるようになったということもある。海外からの視点で地域の魅力を発見・発信することは効果的である。

3点目。テレワークやワーケーションがウィズコロナ・ポストコロナにおける観光振興の重要な点であると思う。和歌山県白浜市ではアメリカのIT企業が進出している。宇治市でもロングロングステイできる場所としてコワーキングスペースを立地するといったことなどをIT企業の方をメンバーに加えて検討してはどうか。

4点目。佐賀県ではフィルムコミッションが様々なロケ誘致に取り組んでおり、タイやフィリピンの映画を佐賀県で撮影してもらうことで、ロケ地にたくさんのタイ人が観光に訪れている。宇治市もアジアドラマの舞台としてプロモーションし、観光客が訪れるような仕組みをつくってはどうか。

5点目。現在、様々な自治体で日本語学校が誘致されている。北海道東川町は日本語学校を町が運営しており、長崎県五島市では市が日本語学校を経営している。これの何が重要かということ、日本語習得のために若い外国人が2年程滞在中で地域の魅力をSNSで発信し、また新たな外国人が訪れてくれるという可能性を示唆している。

6点目。宇治は寺社仏閣といった多くの地域資源を所有している。和歌山県田辺市では熊野古道とスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラとで共通巡礼というプロモーションを行っている。双方の巡礼を達成したら両市のサインが入った証明書を発行してくれる。海外の地域と宇治市が繋がることで双方のブランドイメージを高めるような取り組みも考えられるのではないか。

委員：

以前から提言していたが、宇治にある空き家を使ってアーティスト・イン・レジデンスに取り組んでどうか。市が助成してアーティストを招聘し、宇治のロケーションの中で様々な制作活動をしてもらい、それを発信する。アーティスト・イン・レジデンスは観光の大きな力になると思う。

委員長：

文化庁が京都に移転してくるのでいい機会になるのでは。宇治は環境と立地がいいと思

う。

委員：

庁内連絡会議に都市整備部が入っているが、宇治に来られた観光客が最初に目にするのは町並みや自然景観だと思うので、そのようなテーマについても議論してもらってはどうか。

11年という長期計画となるので、まちづくりの分野とも連携して行ってほしい。

委員：

観光を受け入れる側のホスピタリティが重要となってきたと思うので、観光事業者だけでなく市民も含めた人材育成についても議論してほしい。

委員：

萬福寺でも昨年からアーティスト・イン・レジデンスに取り組んでいる。しかし、萬福寺だけでは発信力の弱さや受け入れできる施設の制約などがあり難しい。

今年は隠元禅師 350 年忌を迎え、コロナ禍でなければ大々的に様々な行事を行う予定であった。数年前まで中国では隠元禅師のことがあまり知られていなかったが、習近平国家主席が日中友好の懸け橋となった人物として名前を出したことがきっかけで、主に福建省から役人や僧侶が宇治に来られるようになり、一般市民にも推奨されるなど京都・宇治への観光が盛り上がっている。そういった中国からの多くの観光客を受け入れできるよう施設等の整備が必要ではないか。

委員長：

観光客は平和の大使といわれている。武器を作るより観光をした方が平和に繋がるという考え方もあるので、宇治のソフトパワーで平和に貢献することは大いに結構だと思う。

委員：

これから日本では人口 20 万から 30 万の都市がどう動いていくかが、国力にかかる問題となってくると思う。宇治市は人口 20 万未満の都市ではあるが、周辺の市と併せて宇治をどう活用していくかは大きな課題である。

また、ワーキングの構成団体は中宇治周辺だけでなく、宇治市の全地域から構成した方がよいのではないか。

委員：

テーマについて、大テーマ、中テーマといった整理が必要ではないか。

これまでの意見に挙がっている、受け入れ側のホスピタリティ、団体客に対応できる施設整備、アーティスト・イン・レジデンスなどの観光誘致や地域活性化、広報戦略や情報発信

といった大テーマの下に中テーマがぶら下がってくると思う。

委員：

ワーキンググループにはぜひとも女性を一定数入れていただくようお願いをしたい。総合計画の男女共同参画の目標数値にも合致していくべきではないか。

・新たな視点について

委員長：

SDGs の視点と観光 DX の推進の 2 案が出ているが、それ以外に意見はあるか。

委員：

環境に配慮した観光ということで、中宇治では道路整備が進んでいるが、各方面での渋滞を今後の観光客の受け入れに併せてどのように解消していくのか。特に南部から中宇治の各文化施設へのアクセスが悪い。これらについてはワーキンググループではなく委員会で事例や問題点を出し合いながら、各機関に協力を依頼することになると思う。

また、観光関連のトピックスだと、10月に京都国立博物館で開催される「茶の湯展」が明らかに宇治と関係してくると思うので、これを一つの起爆剤としてほしい。

オブザーバー：

SDGs にも関係してくるかと思うが、ユニバーサルデザインの視点も必要ではないか。

委員：

観光関連のトピックスとして、中国には「印象劉三姐」という壮大なスケールの舞台がある。その関係者から宇治で公演をしたいと依頼されるなど、中国側は宇治に大変注目している。なんとか取り込んでいけるように宇治市には頑張ってください。

オブザーバー：

本委員会での意見をワーキンググループにきちんと繋げていくことが今回の観光振興計画策定のポイントだと思うので、うまくコーディネートを進めてほしい。

オブザーバー：

新たな視点の追加案として、MaaS(サービスとしての移動手段)、グリーンスローモビリティ、また、バーチャル空間やアバターが現実の観光とどのようにリンクしていくかなどを加えていただけたら。

委員長：

MaaS に関して JR では何か動きはあるのか。

委員：

JR では WESTER というアプリで時刻検索をはじめ移動に伴い付帯するサービスを提供している。また、発展途上ではあるが鉄道と宿泊のワンストップサービスを提供し始めている。

委員：

文化財保護法、博物館法の改正があり、デジタルアーカイブやその発信が重要となってくる。宇治市の各文化施設も順次対応していく必要がある。予算の都合上、すぐには難しいかもしれないが、文化庁移転も控えているので宇治市としての姿勢を示していかなければならない。

委員長：

定刻が迫りつつあるが、本日は非常に闊達な議論により多様な意見をたくさん得ることができた。

事務局で本日の意見を集約し、ワーキングの準備を進めていただければと思う。

・宇治市観光振興計画策定スケジュール

事務局より資料3について説明。

委員長：

本日の委員会全体に関して意見はあるか。

委員：

ワーキンググループに関西電力を入れてもらえないか。天ヶ瀬ダムは宇治の大きな観光資源である。

また、2025年開催の大阪万博で大阪から伏見港まで船で結ぶ案も出ているので、それも計画の中で触れることができればと思う。

9. その他

意見なし

10. 閉会

事務局：

本日は熱心なご議論をありがとうございました。

まだまだ宇治市にはすべきことがたくさんあると実感したので、庁内の若手職員を中心に取りまとめていきたい。

今後も引き続き率直なご意見よろしく願います。